

4月23日は「子ども読書の日」

# 本いっぱい 夢いっぱい



市立図書館の「おはなし会」。たくさん子どもたちが集まります

夢や感動、新たな発見—子どもの健やかな成長に大切な読書。でも、今の子どもたちには「テレビやゲームの方が楽しい」という「本嫌い」な子どもも多いようです。4月23日は「子ども読書の日」。親子一緒に本を開いて、心豊かな時間を過ごしてみませんか。

## 学校図書館の充実

市では、すべての小中学校に学校図書館司書を配置し、学校図書館の蔵書や環境の整備・充実に力を入れています。魅力的な本が並び、いつも「人」がいる図書室は、本を借りる子どもたちの活気であふれています。平成20年度全国学力・学習状況調査で、成田市の小学校では8割近い児童が、中学校では7割以上の生徒が「読書は好き」と回答。その割合は全国平均を上回っています。読書が好きな児童生徒は、国語の問題の正答率も高くなっているようです。※くわしくは教育指導課(☎20-1582)へ。

## 「生きる力」となる読書

以前と比べて、子どもが本を読まなくなったといわれています。テレビやゲームに夢中になるあまり、子どもの「読書離れ」「活字離れ」が進み、国語力や対話能力の低下など、その影響が心配されています。

言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにする—子どもたちが、より深く「生きる力」を身に付けていくには、読書は欠かすことのできない大切なものです。

## 4月23日は子ども読書の日

読書の持つ計り知れない価値を認識し、子どもたちの読書活動を国を挙げて支援していこうと、「子ども読書活動の推進に関する法律」が平成13年に施行されました。ここでは、国や自治体が計画を立てて読書活動の推進に取り組むこ

とや、毎年4月23日を「子ども読書の日」とすることが定められています。

市では、平成16年に「成田市子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもたちが自主的に読書活動を行うことができる環境づくりに積極的に取り組んでいます。

## 大人が手助けを

子どもが本に親しむには、大人の手助けが必要です。子どもに積極的に言葉を掛けたり、自分自身が本に親しむなど、子どもが本を身近に感じられるような環境をつくっていかねばなりません。特に大切なのが乳幼児期。赤ちゃんの時から絵本を読み聞かせることで、スムーズに絵本に親しむことができます。

家庭での「読み聞かせ」や「おはなし」は続けることが大切です。子どもが5・6歳になり、自分で字を読めるようになってくると、ぜひ本を読んであげてください。字を覚え立ての時期には、内容を理解する手助けとなりますし、耳で物語を聞くことで想像力も養われます。

4月23日は「子ども読書の日」。まずは親子で一冊の本を手にとってみませんか。夢や感動、新たな発見—そこには、素晴らしい出会いがきっと待っているはずです。

幼児向け



『おつきさまこんばんは』  
林明子／さく 福音館書店

夜になって、まんまるお月さまが顔を出しました。ところが、雲がやって来て、お月さまを隠してしまいます。屋根の上の猫も心配そう…。でも、大丈夫！また、にこにこまんまるお月さまに「こんばんは」って言えますよ。小さい子どもたちが、大好きなお月さまに会える1冊です。

小学1・2年生向け



『こすずめのぼうけん』  
ルース・エインズワース／作  
ほりうちせいいち 堀内誠一／画 福音館書店

お母さんすずめと飛び方の練習をしていた子すずめは、もっと遠くへ飛んで行けると思いました。1人で世界中飛んで行ける！始めのうち、子すずめは、飛ぶことはとても面白かったと思いましたが、ところが、少しずつ羽が痛くなってきました。それから頭も痛くなってきました。どこかで休もうと思いましたが…さてどうしたらいいでしょう。

小学3・4年生向け



『火曜日のごちそうはヒキガエル』  
ラッセル・エリクソン／作 評論社

ある寒い冬の日、ヒキガエルのウォートンは、おいしいお菓子をおばさんに届けるため、スキーで森に出掛けました。ところが、その途中で悪いみみずくに捕まってしまいます。みみずくは、ウォートンを5日後の誕生日のごちそうにするといいと言います。みみずくからうまく逃げ出す方法はあるのでしょうか。

小学5・6年生向け



『チビ竜と魔法の実 シノダ!』  
富安陽子／著 偕成社

5人家族のシノダ家には重大な秘密があった。実は、ママの正体はキツネだったのだ。人間のパパとキツネのママ、両方の血を引く3人の子どもたちは、ごく普通に暮らしているのだが、ママのキツネの親せきがやってきては、大騒動が巻き起こる。ある日、鬼丸おじいちゃんにくっついてきた雲竜の子どもが、シノダ家のお風呂場に住みついてしまい…。

## 市立図書館

# おすすめ本

市立図書館では、赤ちゃんにお薦めの絵本を「はじめてであう本」コーナーに展示し、新小学1年生に薦める本のリスト「ばんざいいちねんせい」を学校を通じて配布しています。また、新1年生に薦める本と、小中学生の読書の道案内となる本の展示を4月23日(木)から行います。

※くわしくは市立図書館 ☎27-4646、<http://www.library.narita.chiba.jp>へ。

中学生向け



『リバウンド』  
E.ウォルターズ／作 福音館書店

「大事なものは、シュートして得点をかせぐことだけじゃない。失敗したシュートを次にどうやって決めるかだ」。中学のバスケットボールチーム入りを目指すショーンは、新学期早々車いすの転校生デービッドと衝突し、先生から案内役を命じられてしまう。2人は、一緒にさまざまな経験をしながら、次第に心を開いていく。

## 「おはなし会」に遊びに来てください

児童サービス担当司書 久末みちえさん

市立図書館では、赤ちゃんから小学生それぞれの年齢を対象に、わらべうたや絵本の読み聞かせなどを行う「おはなし会」を開いています。4月からは「土曜日のおはなし会」をリニューアルし、第3土曜日には昔話などの語りによる「おはなし」を行うこととなりました。

本を開かずに物語を聞かせる「おはなし」は、読み聞かせと比べて子どもの中に物語がダイレクトに伝わっていきます。目と目を合わせて優しく語り掛けることで、子どもたちは想像を膨らませ、自分の中に「おはなしの世界」をつくり上げていくのです。目をきらきらと輝かせ、「おはなし」の中に入り込んでくるのが分かるほど。物語に興味を抱くことで、本とのつながりもより強くなります。

夏休みや春休みのおはなし会では、ボランティアグループ「おはなしがらがらどん」の皆さんと楽しい時間をつくっています。おはなし会の予定は「広報なりた」や市立図書館ホームページでお知らせしています。ぜひ、お子さんと一緒に図書館に遊びに来てくださいね。

夏休みや春休みのおはなし会では、ボランティアグループ「おはなしがらがらどん」の皆さんと楽しい時間をつくっています。おはなし会の予定は「広報なりた」や市立図書館ホームページでお知らせしています。ぜひ、お子さんと一緒に図書館に遊びに来てくださいね。

